

忠岡町立忠岡小学校

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く

正答率 (1) 85.3%
(2) 58.8%
無解答率 (1) 1.5%
(2) 11.8%

正答率が全国と比べて、
かなり高い。

◆成果が見られる設問◆

●朝学習や校内漢字検定での
成果と考えられる

これからの指導の方向性

☆引き続き、朝学習や校内漢字検
定の取組を継続する。

二 次 の (1) から (3) までの文の | 部 の ひ ら が な を 、 漢 字 で て い ね い に 書 き ま し ょ う 。
(1) 魚 を や く 。
(2) バ ス が て い し や し た 。

考えられる課題

●内容を変えずに、二つの文を一つにまとめる力

正答率 35.3%

無解答率 14.7%

これからの指導の方向性

☆接続詞や助詞を、より適切に使える指導を行う。

☆構成を考えて、文を書くことができるようにする指導を行う。

【編集会議での山下さんの意見】



「塩素酸カリウムなどの輸入」のことだけでは、見出しの「**1** 打ち上げ花火の歴史」との関係がよく分からないな。塩素酸カリウムなどが輸入されたことによって、どのような打ち上げ花火を作ることができるようになったのかを書き加えたほうがいいね。



【ずかんの一部】

開国後、花火師たちはさまざまな色や明るさの打ち上げ花火を作ることができるようになりました。これは、1879（明治12）年ごろ、海外から塩素酸カリウムなどが輸入されるようになったからです。

～（内容が続く）～



【書き直した部分】

[1879（明治12）年ごろ]

海外から塩素酸カリウムなどが輸入されるようになったことにより、

一 今村さんたちは、「**1** 打ち上げ花火の歴史」の山下さんの意見を受けて書き直しました。【書き直した部分】のふさわしい内容を、【ずかんの一部】の中の言葉を使い、書き出しの言葉に続けて書きましよう。

A

の内容について、【編集会議での】の中に入る

考えられる課題

- 文の内容を適切に捉えられる力
- 最後まであきらめずに問題に取り組む力

正答率 25.0%
無解答率 50.0%

これからの指導の方向性

- ☆ 問題文を読み、何が問われているかを適切に把握できる力を育てる指導を行う。
- ☆ 文の内容を理解し、問われている部分を取り出すことができる力を育てる指導を行う。

3

【本間さんが書いた すいせん文】	【花田さんが書いた すいせん文】	
○ 作者の作品を集めた本 「手ぶくろを買いに」 「おじいさんのランプ」	○ 「ごんぎつね」	どのような本や文章をすすめているか
○ ア	○ 物語をくり返して読んだ経験がない人	どのような人にすすめているか
○ ウ 〈読むことを通した効果の面から〉 ○ 作者自身のことについて知識を増やしたり、作品にこめられた意味を深く考えたりすることができるから。	○ イ 〈作品の持ちよりの面から〉 ○ 物語の最後の部分に深い味わいがあるから。 ○ 花田さんの読書経験から ○ 物語の最後の部分が気になり、物語の全体をくり返し読み、登場人物の心の変化をたどってみたくなったから。	すすめる理由

【ノート】

「前田さんは、二人のすいせん文を比べて読み、分かったことをノートにまとめました。【ア】の【イ】・【ウ】の中に入るふさわしい内容を、本文中の言葉を使って書きましょう。」

小数の乗法の計算をすることができる
()を用いた整数の計算をすることができる

1

次の計算をしましょう。

(3) 9.3×0.8

(5) $16 - (6 + 3)$

正答率 (3) 89.7%
(5) 97.1%
無解答率 (3) 0.0%
(5) 0.0%

正答率が全国と比べて高く、
無解答率も0%である。

◆成果が見られる設問◆

●朝学習で取り組んできた百マス計算等の成果と考えられる

これからの指導の方向性

☆今後も朝学習での百マス計算等に継続して取り組む。

単位量あたりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述できる

4

平成23年(2011年)に行われたサッカー女子ワールドカップで、サッカー日本女子代表のなでしこジャパンが優勝しました。

(1) ひろきさんは、ワールドカップ後のなでしこリーグ(日本女子サッカーリーグ)の試合の観客数が増えたのではないかと考えました。

そこで、あるサッカー場で行われた、平成23年のなでしこリーグの試合の観客数を調べ、下の表にまとめました。

サッカー日本女子代表
なでしこジャパンが
ワールドカップで
優勝した際の写真

あるサッカー場の試合数と観客数

	試合数 (試合)	観客数の合計 (人)	試合あたりの観客数 (人)
ワールドカップ前	2	約 2200	約 1100
ワールドカップ後	3	約 33000	

ワールドカップ後の|試合あたりの観客数は、ワールドカップ前の|試合あたりの観客数の約何倍になっていますか。求め方を式や言葉を使って書きましよう。また、答えも書きましよう。

考えられる課題

●立式及びその理由を言葉で説明できる力

正答率 22.1%
無解答率 16.2%

これからの指導の方向性

☆二つの数字をどの四則を使って、計算するのかを考える力を育てる指導を行う。

☆言葉を使って、答えの求め方を説明できる力を育てる指導を行う。

かずやさんたちは、実際にインターネットの貸出冊数が増えているかどうかを調べます。

インターネットの貸出冊数は、次の式で求められます。

$$\text{貸出冊数の合計} \times \frac{\text{インターネットを利用した割合}}{100} = \text{インターネットの貸出冊数}$$

この式を使って、かずやさんとたまきさんは、平成20年と平成21年を比べました。



かずやさんの考え

30%と40%を小数で表すと0.3と0.4になります。

$4500 \times 0.3 = 1350$ なので平成20年は1350冊です。

$4500 \times 0.4 = 1800$ なので平成21年は1800冊です。

だから、平成21年のほうが増えています。



たまきさんの考え

30%と40%を小数で表すと0.3と0.4になります。

4500×0.3 と 4500×0.4 を比べると、もとにする量は同じで、割合は大きくなっています。

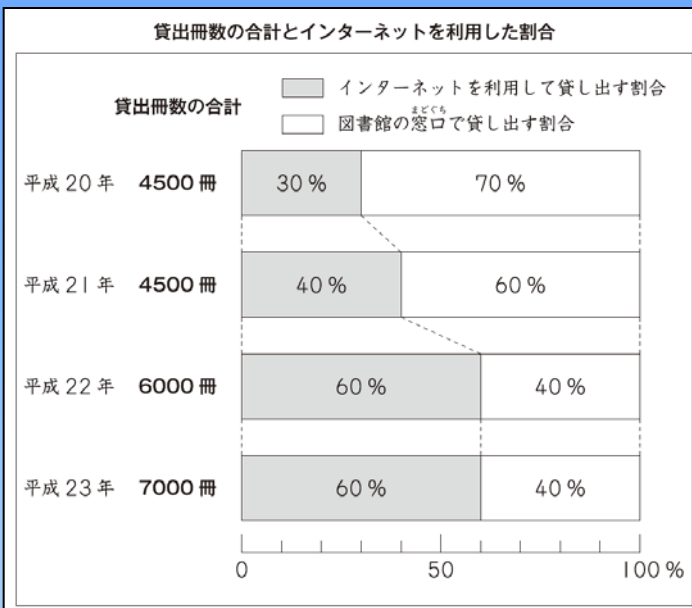
だから、平成21年のほうが増えています。

平成22年と平成23年を比べると、インターネットの貸出冊数は増えていますか。下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、2人の考えのどちらか一方をもとにして、言葉と数や式を使って書きましょう。

- 1 平成22年より平成23年のほうが増えている。
- 2 平成22年より平成23年のほうが減っている。
- 3 平成22年と平成23年は変わらない。

正答率 26.5%
無解答率 11.8%

割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述できる



考えられる課題

- 言葉や数や式を使ってその判断の理由を説明できる力
- 例をもとにそれを応用する力

これからの指導の方向性

☆複数または、多様な考えに触れさせる指導の充実を図る。

☆言葉・数・式を使って、求め方を説明できる力を育てる指導を行う。

忠岡小学校 児童アンケート

(6)自分には、よいところがあると思いますか

あてはまる・どちらかと言えばあてはまる
56.5%

考えられる課題

●自分が認められる存在であるとの機会が十分でない

これからの指導の方向性

☆児童のよいところを見つけて評価するだけでなく、より能動的に授業や行事等において、課題に向き合わせ、成果だけでなく、取り組む姿勢や過程を大事にして評価していくことに取り組む。

(11)一人一人の人間には考えや性格に違いがあるということを大切にしていますか。

あてはまる・どちらかと言えばあてはまる
73.9%

考えられる課題

●違いを認めあい、自己も他者も大切にしようという態度の育成

これからの指導の方向性

☆授業や行事等において、他者の意見や考えを聞くとともに、自分の考えを伝え、互いに認めあい、協力していこうとする姿勢を育てる指導を行う。

忠岡町重点目標にむけての分析及び今後の方向性

忠岡町重点目標

①授業内容がわかる子どもをふやす

②授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす

③家で計画的に学習する子どもたちを育てる

④読書に親しむ子どもたちを育てる

⑤自分には良いところがあると思う子どもたちを育てる

①授業の内容がよく分かると答えた児童の割合が低いことを踏まえ、授業のめあてや流れを明確にするとともに、わかりやすい発問や資料提示を心がけた指導を行う。

②自分の考えを発表する機会が与えられていると答えた児童の割合が低いことを踏まえ、「なぜそうなるのか」のような理由を問う発問を意識するとともに、自分の言葉で発表する場をさらに充実する。

③家で計画を立てて勉強していると答えた児童の割合が低いことを踏まえ、保護者との連携を意識し、家庭学習がんばり週間等の取り組みの充実を図る。

④読書が好きであると答えた児童の割合が低いことを踏まえ、司書と連携した学校図書室や学級文庫の整備や読書意欲を高める取り組みの充実を図る。

⑤自分によいところがあると答えた児童の割合が低いことを踏まえ、授業や行事等において、課題に向き合わせ、成果だけでなく、取り組む姿勢や過程を大事にして評価していくことに取り組む。